

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
[10]2,6-ジニトロトルエン [11] <i>m</i> -ジニトロベンゼン [16] <i>o</i> -ニトロアニリン [17] <i>m</i> -ニトロアニリン	<p>【水質】</p> <p> 水質試料 1,000mL 振とう抽出 塩化ナトリウム 30g ジクロロメタン 100mL (1回目)、 50mL (2回目) サロゲート溶液添加 2,6-ジニトロトルエン-d₄、<i>m</i>-ジニトロベンゼン-d₄、<i>o</i>-ニトロアニリン-d₄、<i>m</i>-ニトロアニリン-d₄ 脱水 無水硫酸ナトリウム 濃縮 ロータリーエバポレータ 窒素パージ 2mLまで 転溶・濃縮^{注5} ヘキサン 50mL ロータリーエバポレータ 窒素パージ 2mLまで カラムクリーンアップ^{注1 注2 注3 注4 注5} 5%含水フロジール 5g 洗浄: 10%ジクロロメタン/ヘキサン 50mL 溶出: 10%アセトン/ヘキサン 40mL 濃縮 ロータリーエバポレータ^{注5} 窒素パージ 0.5mLまで^{注4} 内標準添加 アセナフテン-d₁₀ 1mg/L 50μL 定容 ヘキサン 1mL GC/MS-SIM </p> <p> <注>次に示す方法を採用した例もあった。 1,2:カラムクリーンアップを省略した。 3:カラムクリーンアップを省略し([10][11][16][17])、また、測定機器としてMSはAutomass Sun、カラムはBPX35を使用した([10][11][16][17])。 4:ジクロロメタン抽出後カラムクリーンアップを省略し、ロータリーエバポレータ及び窒素パージにより1mLまで濃縮し、GC/MS用試料とした([10][11][17])。また、測定機器としてMSはJMS-K9を使用した。 5:ヘキサンによる転溶・濃縮とそれに続くカラムクリーンアップは行わなかった。内標準物質添加前の濃縮を窒素パージのみで行った。また、測定機器としてGCはHP5890、MSはAutomass、カラムはDB-17MS(30m×0.25mm、0.15μm)を使用した。 </p> <p style="text-align: right;">「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」 準拠</p>	<p> <分析原理> GC/MS-SIM <検出下限値> 【水質】(ng/L) [10] 1.4 [11] 1.9 [16] 1.1 [17] 2.2 <分析条件> 機器 GC: HP 6890^{注5} MS: HP 5973 MSD^{注3 注4 注5} カラム DB-5MS^{注3 注5} 30m×0.25mm、0.25μm^{注5} </p>